

共創の取組事例

◆ ポロクルの特別仕様車『9期計画号』 2年目スタート

- 『9期計画号』が今年も札幌のまちなかを走っています。出会えました？
- 昨年8月、札幌開発建設部と認定NPO法人ポロクルは「第9期北海道総合開発計画」のスタート記念として、札幌のシェアサイクル「ポロクル」の1台だけの特別仕様車『9期計画号』を展開しました。『9期計画号』は、全620台の赤い車体の内、1台だけのエメラルドグリーンのカラーの車体です。



4月6日(日)より『ポロクル』2025年度営業開始！
自転車は約620台、ポートは約60カ所でスタート

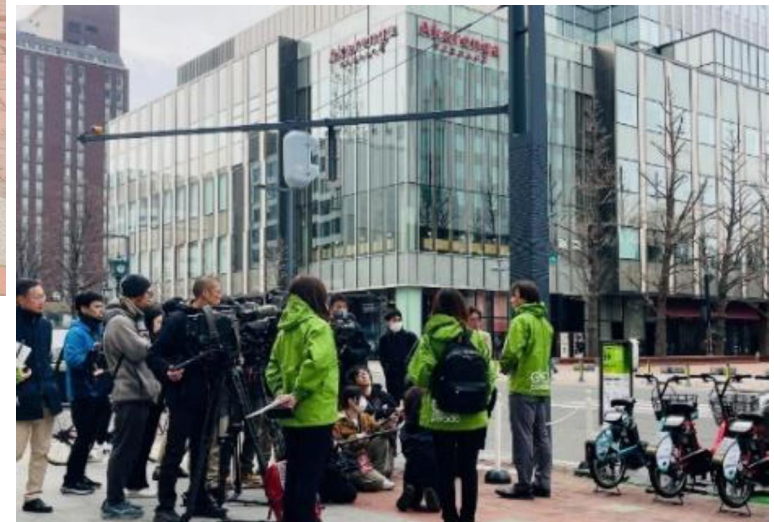
札幌都心部で展開しているシェアサイクル『ポロクル』は、新車両への入替や増車により自転車約620台、昨シーズンと同規模のポート約60カ所で、4月6日(日)10時に営業を開始します！

営業期間：2025年4月6日(日)～11月15日(土)

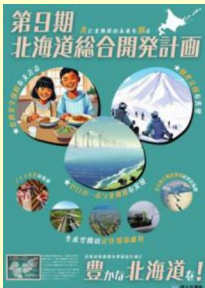
今後ポートは、賑わいを増している創成川イーストエリア等への設置を予定しています。今シーズンも、市民や旅行者に楽しく便利で安全に札幌の街を周遊していただけるサービスを提供してまいります。



※認定NPO法人ポロクル プレスリリースより



4月6日(日)、多くの報道が集まる中、今年の営業が開始されました。(認定NPO法人ポロクル囲み取材の様子)



第9期計画ポスター

※認定NPO法人ポロクルとの連携

昨今、環境負荷の低減、渋滞対策、健康増進の観点から自転車の活用が推進されています。札幌開発建設部では、札幌都心部の自転車と自動車の共存可能な車道走行環境の確保を目指し、官民協働による自転車対策の推進を図ってきました。また、近年は災害発生時の防災の観点からも協力関係を築いているなど、認定NPO法人ポロクルは、自転車の活用推進に向けて一緒に取り組みを進めてきたパートナーです。このような背景のもと、お互いの趣旨が相まって今回の取組に至りました。

共創の取組事例

◆ シーニックバイウェイ北海道～彩り豊かにお出迎え

- 北海道の玄関口である新千歳空港周辺を花で飾るイベント、千歳ウエルカム花ロードが開催されました。
- 平成15年から始まった活動は今年で23回目となり、千歳ウエルカム花ロード実行委員会の呼びかけにより、ボランティアや地元小学生、今年は、プロバスケットボールチームレバンガ北海道のマスコット「レバード」が応援に駆けつけました。
- 今回の花植えは、道道千歳インター線及び国道36号（新千歳空港周辺）にて、ボランティアや地元小学生などが参加し、空港周辺の沿道約5kmに植栽しました。



千歳ウエルカム花ロードは、次代を担う子ども達におもてなしの心を育んでもらうことを目的としたシーニックバイウェイ北海道支笏洞爺ニセコルートの活動の1つです。

千歳ウエルカム花ロードの取組の概要

1. 植栽等事業
 - (1)土おこし (2)花植え
 - (3)除草 (4)花株除去
2. 情報発信
 - HP, SNS, チ・カ・ホ（札幌駅前地下歩行空間）でのPR
3. 普及啓発
 - 小学校での事前特別授業



レバンガ北海道と北海道開発局は、双方が持つ強みを活かして北海道の地域振興や地域活性化に向けた取組を推進することを目的として、令和7年3月5日、包括連携協定を締結しました。



調印の様子はこちら
(札幌開発建設部公式X)



北海道開発局と
レバンガ北海道との連携

共創の取組事例

◆ 5月30日は「ごみゼロ」の日／地域と共にきれいなまちを創っています

- 5/30（金）、管内各地で清掃活動が行われました。
- 千歳市支笏湖周辺道路では、国道453号を「汚さん（453）」として、今年で22回目となる清掃活動が行われました。（参加者140名）この活動は、シーニックバイウェイ北海道の活動の一環です。

453（ヨコサン）530（ゴミゼロ）キャンペーンin支笏湖

～ 春を感じるおもてなしの「みち」づくり ～

国道453号を「汚さん＝453」、ごみゼロを「530」と例えた「453（ヨコサン）530（ゴミゼロ）キャンペーン」は今年で22年目の開催となります。シーニックバイウェイ北海道の取り組みの一環である「秀逸な道」区間を含む支笏湖周辺の道路で、地域の方々や小学生が早朝に清掃活動を行います。

天気にも恵まれた開会式の様子



ゴミの量は去年より多く、大型テレビなど不法投棄と見られるゴミもありました（残念）



（おまけ）
支笏湖面に映る風不死岳。
清掃活動にあわせて大変美しい
鏡面の姿が見られました。

- こちらは、赤平市で開催された清掃「Cleanupあかびら」
- 朝早くから集まった地域の方々約180名！
- 道路と軸としたまちづくりを目指す「アイラブ・ロードあかびら推進協会」、河川協力団体※「赤平ラブ・リバー推進協会」等の主催です。

※河川協力団体は、河川の維持、河川環境の保全など河川の管理につながる活動を自発的に行っている河川管理者が指定する民間団体等です。



共創の取組事例

◆ これからの大雨シーズンに備えて～レバンガ北海道との共創(防災広報)～

- 5月31日、これから迎える大雨の時期に向けて、水害に備えた実践的な総合訓練が行われました。訓練には、令和7年3月に包括連携協定を締結したレバンガ北海道の折茂武彦氏が水防工法訓練で水防隊の応援に駆けつけました。



住宅浸水防止工に参加したレバンガ北海道 折茂氏



訓練に参加した地元小学生のみなさん



水防リポーターの地元高校 放送局員



©LEVANGA HOKKAIDO



共創の取組事例

◆ 令和7年度「治水功労者表彰」伝達式を行いました

- 治水功労者表彰制度は、河川愛護月間(毎年7月1日～31日)に関連する行事として、北海道開発局が所管する河川の治水に功績のあった個人又は団体に対して、北海道開発局長が表彰するものです。
- 今年度、札幌開発建設部管内では、河川の美化や良好な河川環境の保全等に功績のあった2団体が表彰され、伝達式を行いました。
- 長年にわたる地域の活動は、川に対する愛着を育み、良好な河川環境を守ろうという住民意識を醸成するとともに、次世代へ受け継ぐためのきれいな川づくりに寄与しています。

北海道開発局長表彰



NPO法人ふらっと南幌

地域の歴史・自然等の魅力発信、フットパスイベント等を通じた産業遺産等の紹介、河川敷の外来種駆除、地元小学校への自然体験学習、堤防天端等の清掃活動など多彩な活動を展開しています。

北海道開発局長表彰



石狩川下寛権

石狩川の川下り、砂川遊水地を利用した水上体験学習、石狩川中流域住民の皆さんとの河川清掃活動等を通じて、地域住民と交流を図り、石狩川への親しみを深める活動を推進しています。

共創の取組事例

◆ 令和7年度「道路功労者表彰」伝達式を行いました

- 道路功労者表彰制度は、道路ふれあい月間(毎年8月1日～31日)に関連する行事として、道路の清掃・美化活動、道路愛護思想の啓発などに顕著な功績のあった団体・個人に対し、国土交通大臣及び北海道開発局長が表彰するものです。
- 今年度、札幌開発建設部管内では、道路の清掃・美化活動に功績のあった3団体が表彰され、伝達式を行いました。
- 長年にわたる各団体の活動が、快適な道づくりを共に進め、地域コミュニティの活性化につながるまちづくりに寄与しています。

国土交通大臣表彰

リバーサイド滝新倶楽部



8/27 伝達式の様子(滝川市役所内)



H11.8の団体設立時からVSP実施団体として、26年間にわたり、滝川市内の国道451号周辺において、延長約1,100mの区間で植樹帯への植花や維持管理、歩道清掃を行うなどの道路美化活動に取り組んでいます。

※ VSP:ボランティア・サポート・プログラム

北海道開発局長表彰



道路功労者表彰伝達式

H20.4結成。
H22年度からVSP実施団体として15年間にわたり奈井江町内の国道12号周辺において、延長約550mの区間で歩道及び路肩の清掃を行うなどの道路美化活動に取り組んでいます。

北海道開発局長表彰



道路功労者表彰伝達式

H17.3結成。
H20年度からVSP実施団体として17年間にわたり札幌市厚別区内の国道12号周辺において、延長約1,000mの区間で植樹帯への花植えを行うなどの道路美化活動に取り組んでいます。

(株)櫻井千田R12Go! Go! ゴミ0(ゼロ)会

あつべつ区民協議会

共創の取組事例

◆ 体験して学ぼう！ 備えよう！～砂川遊水地で防災フェスティバルが開催～

- 8月31日(日)、砂川市で防災フェスティバルが開催されました。主に砂川遊水地で活動している「砂川こどもの水辺協議会」や「砂川市教育委員会」等が主催するイベントです。
- 札幌開発建設部が展示した「降雨体験機」では多くのこどもたちが大雨を体験するなど、実際の体験を通じて、災害への備えの大切さを学ぶ機会となりました。



1時間当たり150mmの降雨を体験！
※写真は75mm/時間を体験中



給水活動ブース（中空知広域水道企業団）



遊水地でのアクアボール体験



模型による砂川遊水地の紹介
(砂川こどもの水辺協議会)

A colorful poster for the '防災フェスティバル' (Disaster Festival) held on August 31st, 2025, from 9:45 to 14:00. The poster features various activities and speakers. At the top, it says '防災フェスティバル みんなで学ぼう！ 備えよう！' (Disaster Festival: Let's learn together! Prepare!). Below this, it lists the date '2025 8.31(日)' and time '9:45~14:00'. The venue is '会場 オアシスパーク 砂川遊水地管理棟' (Venue: Oasis Park, Sand River Water Area Management Building). The poster also mentions a '防災講演会' (Disaster Lecture) from 10:00 to 11:30, featuring a speaker '気象予報士・防災士 菅井 貴子さん' (Weather Forecaster/Disaster Preparedness Officer: Ms. Kikuko Sugai). Other activities include '降雨体験' (Rain Experience), '砂川小学校 ウィンズアンサンブルによる演奏' (Performance by Sand River Elementary School Winds Ensemble), '遊水地でカヌーSUP・アクアボール' (Canoe SUP and Aqua Ball in the Water Area), and 'お祭り広場' (Festival Ground) from 11:00 to 14:00. The poster also lists various booths and activities like '災害時(タンポールベット・給水車)' (Disaster Time: Tampoer Bed and Water Truck), '川の模型体験' (River Model Experience), and 'アートパルーン' (Art Pylon).

共創の取組事例

◆ 全道に先駆けて、国道230号中山峠で除雪車出陣！

- 国道230号の札幌市南区と虻田郡喜茂別町の境界にある中山峠は、標高835mに位置し、冬期間の気象条件が厳しい区間です。
- 10月1日、降雪期を迎える前に、冬期間における道路交通の安全確保を図るため、除雪機を除雪基地へ配備し除雪体制を整えることに併せて、札幌開発建設部札幌道路事務所と小樽開発建設部倶知安開発事務所が合同で除雪出陣式を開催しました。
- 出陣式には、北海道開発局と包括連携協定を締結しているプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の折茂社長とマスコットのレバードが激励に駆けつけ、除雪作業への協力を呼びかけました。

中山峠の除雪は、2つの事務所が連携して実施



国道230号沿いの中山峠除雪ステーションに関係者約50人が参加



出陣式の前に除雪作業の安全を祈願



除雪作業へのご理解・ご協力をお願いします

札幌
開建
HP



レバンガ北海道から、円滑な除雪への協力を呼びかけるステッカーが贈呈されました

共創の取組事例

◆ こどもの運動プログラムを通じた教育機関との共創

- 多様な主体との連携・協働による地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組の一環として、北海道教育大学岩見沢校等との協働により、こどもの運動プログラム「Nチャレンジ」を道の駅で実施しました。
- 道の駅「田園の里うりゅう」（6月29日）では、道の駅のイベント「おいしい！初夏まつり」の会場で実施。また、川と道の駅「花ロードえにわ」（10月19日）では、石狩管内の道の駅で初めて実施となりました。
- 本プログラムは、地域の子ども達に運動に親しんでもらうこと。道の駅等の既存の公共施設を活用して、地域の賑わいの場を創出することを目的としています。



道の駅 田園の里 うりゅう（6月29日）

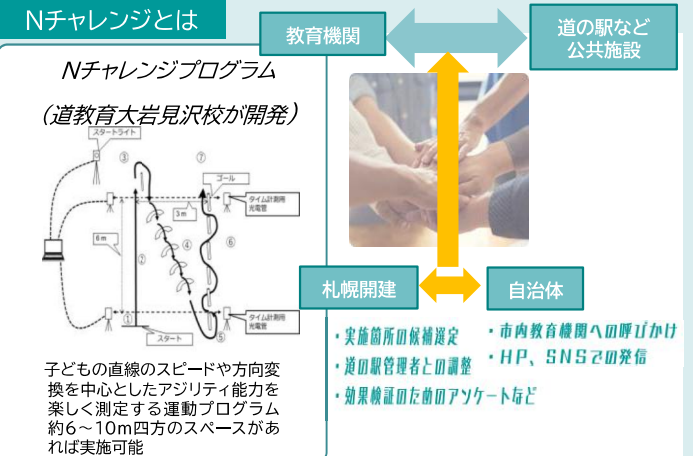


道と川の駅 花ロードえにわ（10月19日）

午前10時から午後2時までの間に、「田園の里 うりゅう」には町内外から40名以上、「花ロードえにわ」には市内外から70名以上の子ども達の参加があり、大盛況でした

「Nチャレンジ」を実施して体感できた効果

- ◆ 「Nチャレンジ」を目的に道の駅を訪れた方が多数見られました。イベントを通じて交流促進が図られ、地域活性化への効果が期待できます。
- ◆ たまたま立ち寄った方の参加もあり、道の駅が持つ集客力の大きさを実感できた。
- ◆ 参加者の声から「いろいろな地域で実施してほしい」、「子どもと楽しめるイベントがありがたいです」といった意見が寄せられ、地域の子ども達が運動に親しむ動機づけとなった。



北海道開発局と北海道教育大の連携



調印式の様子
(北海道開発局 公式X)



北海道開発局と北海道教育大学は、北海道における将来世代の人材育成及び地域活性化を目的として、令和7年6月27日、包括連携協定を締結しました。

共創の取組事例

◆ 官民連携のこども向け環境学習プログラムを実施～長沼町 舞鶴遊水地～

- 10月18日、長沼町の舞鶴遊水地で第3回エコハーモニープログラムが開催されました。
- 本プログラムは、日本航空（株）およびイオン北海道（株）が主催する、小学生向けの環境学習プログラムです。
- 全3回シリーズの最終回として、生態系や有機農法について学びながら、企業・地域・行政が連携し、子どもたちと共に持続可能な社会のあり方を考える「共創」の機会となりました。

■ 日 時 : 2025 年 10 月 18 日 (土) 9:00～13:30

■ 場 所 : 本棚カフェあざらしとしろくま (長沼町 / 学童保育の場所としても活用されている)

■ 主 催 : 日本航空(株)、イオン北海道(株)

■ 後 援 : 長沼町 ■ 協 力: 日本生態系協会、石狩川生態系ネットワーク推進協議会、札幌開発建設部 ほか

■ 参加人数 : 小学生 約 25 名 (うち、全3回の皆勤賞:11名)

■ スタッフ : JAL、イオンチアーズクラブ、長沼町、日本生態系協会、札幌開発建設部(河川計画課、地域連携課、千歳川河川事務所)



共創の取組事例

◆ 令和7年度 かわまち大賞に札幌開発建設部管内の取組が初受賞

- 『かわまち大賞』は、全国で進められている「かわまちづくり」※（303か所）の中から、他の模範となる先進的な取組を国土交通大臣が表彰するものです。
- 砂川地区かわまちづくり（砂川市）が、今回、管内で初の受賞となりました。
- 令和8年1月19日、国土交通省国土交通大臣室にて表彰式が行われました。（当部より、滝川河川事務所長が立席）

※「かわまちづくり」

地域が地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した賑わいある良好な空間形成を目指す取組です。



国土交通省ホームページより引用

受賞者と記念撮影(右から2人目:飯澤 砂川市長)

※左は静岡県伊豆の国市



国土交通省ホームページより引用

砂川市長に授与する金子大臣

○評価のポイント

遊水地を活かしたかわまちづくりの事例として貴重で、さらに結氷した湖面での活動や冬まつりの開催等の冬季活用を進めている点は、水辺利用における季節格差への対応例として先進的であり、今後のかわまちづくりの参考となる。

○表彰式後の懇談において、金子大臣からのコメント

「どちらの地区も「かわまち大賞」にふさわしい取組である。引き続き、全国の模範として川を活かしたまちづくりを進めていただきたい。」

国土交通省ホームページより引用

共創の取組事例

札幌開発建設部管内では、5年ぶりの表彰

◆ 令和7年度「手づくり郷土賞」^{ふるさと}認定証伝達式を行いました

- 国土交通省では、地域の魅力や個性を創出している社会資本とそれに関わりがある優れた地域活動が一体となった成果を「手づくり郷土賞」として表彰しています。
- 今年度、札幌開発建設部管内で活動している3団体が、一般部門で国土交通大臣表彰を受賞されました。江別河川事務所と長年にわたる川づくりの取組で関わりのある3団体が表彰され、令和8年1月伝達式を行いました。
- 栗山町内で行われた伝達式では、活動団体の他、栗山町長ら役場職員、空知総合振興局副局長（建設管理部担当）、北海道開発局長、札幌開発建設部長ら約70名の関係者がお祝いにかけつけ、盛大に行われました。

手づくり郷土賞受賞団体

- ・栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会
- ・夕張川自然再生協議会
- ・オオムラサキの会



河川体験学習（小学生による環境学習）



二ホンザリガニ生息調査

札幌開発建設部HPより

令和8年1月21日 伝達式当日の様子



団体の活動内容を紹介している様子
（オオムラサキ館）



伝達式の記念撮影

札幌開発建設部公式Xより

共創の取組事例

◆ 札幌開発建設部岩見沢河川事務所 講演会～『空知の歴史を学ぶ』～

- 今回の講演会では、櫻庭誠二さんによる樺戸集治監の囚人たちによる北海道開拓についての講演、桜庭和さんによる歴史を題材にした歌を交えた地域の歴史について講演いただき、社会資本整備の基礎となる空知の歴史を地域の方々とともに学びました。お二人の講演から、今後の共創による地域づくりの更なる推進のヒントをいただきました。
- 最後の質問タイムでは、参加者からは、「囚人開拓の過酷さ」、「北海道開拓に従事した人々の思いを引き継いで行くこと」、「郷土愛を持つきっかけ」についてのご質問がありました。また、岩見沢農業高校の生徒から「空知は、様々な人が関わりながら作られた地域であることを実感した」との感想をいただきました。

■ 日 時 : 令和 8 年 3 月 11 日 (水) 14:30～17:00、 場 所 : 岩見沢市民会館 まなみーる 中ホール 参加者 : 約400名
■ 講 演 : 『歴史に学ぶ地域の未来』シンガーソングライター/ 美深町初代観光大使、えべつ観光特使 桜庭 和 (さくらば ひとし) 氏
『北海道開発の原点 樺戸集治監と北海道開拓』 月形樺戸博物館名誉館長、前月形町長 櫻庭 誠二 (さくらば せいじ) 氏



櫻庭 誠二 氏ご講演の様子



桜庭 和 氏 ご講演の様子



パネル展示の様子(会場内)

札幌開発建設部岩見沢河川事務所では、北村遊水地事業等の河川整備を通じて、多様な主体との連携・協働による共創の取組を展開し、地域の活力ある発展を目指すとともに、第9期北海道総合開発計画を推進しています。